

是正指導 20年 —広島県教育の現在地—

■ 中 ■

月、正式な教科に格上げされた。この日の授業は、文部科学省が学習指導要領で示す教えるべき価値の一つ「相互理解、寛容」について、理解を深める狙いだっ

た。太枝教諭は「自分ならどうするか。児童が実際の生活に重ねて考えられる進め方を意識した」と語る。

指導計画を提出

是正指導で問題視された

の「道徳の時間が『人権』などの名称になつてい」などの12項目だった。市教委は、小中学校に道徳の年間指導計画と年度末の報告書の提出を求めるなどの対策を進めた。2001年6月にとめた文科省への報告書では「それぞれの項目

より体系的にバランス良く教えられている」と強調する。そうした流れに従って姿を変えてきた道徳を、部落解放同盟広島県連合(尾道市)の岡田英治副委員長(65)は冷やかに見つめる。「心の教育は、社会の

学2年男子がいじめを苦に自殺。事態を重くみた政府の教育再生実行会議が教科化を提言した。中教審も14年10月に答申し、ことし4月から小学校、来年4月から中学校での実施が決定。文科省の教科書検定では小学校8社と中学校8社の教科書会社が全て、いじめに関する内容を扱った。

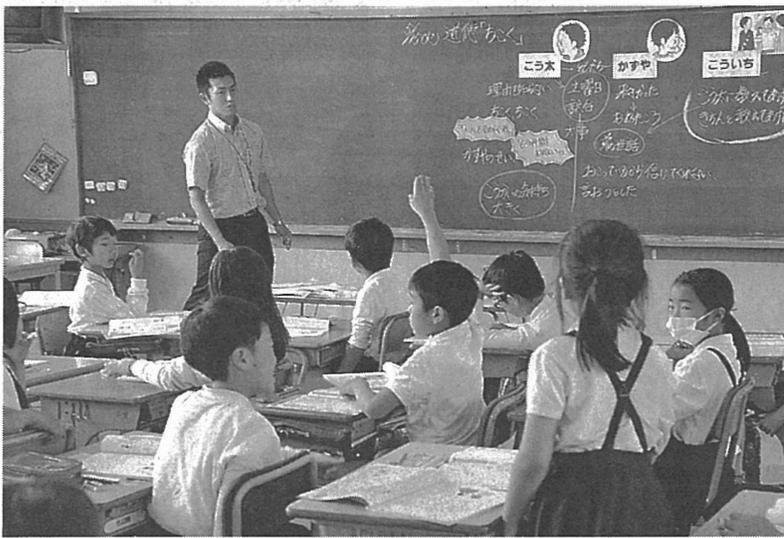
心育むバランス模索

国の価値観強要懸念も

「理由も聞かずに怒るなんて、こう太は優しくもない」でも、遅刻したかずやも悪い」。福山市の津之郷小で15日、4年生の39人が道徳の授業で盛んに意見を交わしていた。担任の太枝健太郎教諭(33)が問い掛けた。「じゃあ、こう太はどうすれば優しい行動になったと思う?」。一瞬、教室内が静かになった後、再び子どもの手が挙がった。

教材は、サッカーの試合に遅刻してきた「かずや」に、チームメートの「こう太」が敗戦の怒りをぶつける内容。こう太は、遅刻の理由が「親の代わりに弟の面倒を見た」ことだったと後で知り、心がざわつく。道徳は全国の小学校で4

道徳



道徳の授業で意見を交わす津之郷小4年の児童(福山市)

で一定の成果を上げた」とり、「人権とは何か」を心から学び取っていく教育が必要だと訴える。

いじめきつかけ

道徳の教科化は学校での「いじめ」問題がきつかけだった。11年、大津市の中

クリック

道徳の教科化 2015年3月に学習指導要領の一部が改正され、それまでは教科外の活動だった「道徳の時間」が「特別の教科道徳」と位置付けられた。小学校ではことし4月、中学

校では来年4月から、正式な教科として授業がある。授業時間数は小中学校ともこれまで通り年間35時間。ほかの教科と違い、教員による評価は数値ではなく、授業中の会話や姿勢、感想文などから子どもの成長ぶりを文章で記述するため、「特別の教科」とされた。

(教蓮孝匡)